

春

夏

秋

冬

9

6月24日 インティライミ

# インカの繁栄を祈る 太陽の祭り



アンデスの山々に囲まれた町クスコは、かつて南米大陸に栄えた巨大なインカ帝国の首都だった。そのクスコでは、南半球の冬至を迎えて間もない6月24日、盛大なインティライミが行われる。

インティとはインカ帝国の共通語(ケチュア語)で「太陽」、ライミは「祭り」という意味だ。この日のためにインカ帝国全土から集まってきた人々は、鮮やかな民族衣装を身にまとい、各地の特産物を持って皇帝の前に参じる。「太陽の子」とたたえられたインカ皇帝は、この年の収穫に感謝し、次の年の豊作を願って民とともに祝う。太陽が地球から離れ、最も日が短くなるこの時期、太陽の神を惜しむかのように。

みこしに乗ったインカ皇帝がブラヨック(金のつえ)を手に登場すると、周囲から歓声が沸き上がる。そして皇帝の指揮のもと、神官たちが聖なるトウモロコシの地酒を大地に注ぎ、神の言葉が宿るココアの葉で運勢を占う。生きたリヤマの心臓を太陽の神に捧げるといふ儀式がクライマックスを迎えると、山の民は大地を轟かすように激しく踊り出す。

インティライミは、一年の区切りを付けるインカの大切な祭りとして、今日まで続いている。